



当院の周産期体制について



当院は、地域周産期母子医療センターとして認定されています。

2024年8月現在、7名の産婦人科医（うち産婦人科専門医6名、日本周産期新生児学会専門医2名）で母体搬送・産科救急に24時間対応し、ハイリスク妊産婦の管理・分娩を行っています。

出生数は減少の一途をたどり、2023年の合計特殊出生率は過去最低の1.20となりました。一方、高齢妊娠の増加や周産期医療・生殖補助技術の進歩によりハイリスク妊娠は増加しています。

当院は、MFICU・NICU・GCUを有し、早産は28週から受入可能であり、内科・麻酔科・放射線科との連携の下、様々な母体合併症や産科救急に対応しています。

一方、低リスク妊娠に関しては、助産師による助産外来を積極的に行っています。24～25週に1回、37週～39週に3回設定しており、きめ細かい指導をしています。また、産後2週間健診や1か月健診はもちろんのこと、母乳外来や産後ケア入院による産後のケアも入念に行っております。最近では、産後のメンタルに関する不安や社会的な問題を抱える妊産婦も多く、医師・助産師だけでなく、必要に応じてソーシャルワーカー・臨床心理士・理学療法士など多職種と連携し、個々の症例に対応しております。1人1人の妊婦さんに寄り添い、丁寧に向きあうことを心がけています。

当院は、今後も地域周産期母子医療センターとして、地域の周産期医療に貢献してまいります。お困りの症例は24時間対応可能ですので、いつでもご相談ください。また、産後の不安を抱えた妊婦さんもぜひともご紹介ください。



産婦人科 佐々木佳子